

# 建築が街と関わり、街路空間を再構築する

## 街路空間の再構築

敷地は中心市街地の角地であり計画的には道路斜線が厳しいが、圧迫感を軽減し、規制を形態に感じさない5層の建築を計画した。

住・働・遊の多用途の賃貸形式とした。街の中に複合的な機能を配置することで、多機能を盛込んだ生活様式とするプログラムが生まれ、街の中にそれぞれの違った雰囲気を出せる。

建物をセットバックさせ、凹凸をつけることで、間口60mと長い敷地を活かした中間領域を設けている。街路、中間領域、内部が互いに広がり共有しあい、豊かな空間を構成する。

また並木、サッシ、ルーバーとそれぞれ違ったオーダーとすることで、建築の形態を身近なスケールに近づけることを意図した。

街路空間を豊かな通りにし、建築とつながりをもたせることは街並みを変える。

## 表層と内部構成

ルーバーは通行者の視線を断続的にカットしつつ、外部に対して生活感を醸しだしている。落とす影は室内のイメージを構成する一部となり、夜にはルーバーから漏れる光が街を明るく照らす。

また遠目のルーバーは面として見えるために、2、3F部分は目隠しとして機能し、1Fのガラスカーテンウォールが強調され、室内の動き、陳列物が目を引くよう意識した。

市街地でプライバシーを保ちつつ、街との関係を持ちながら住むことが、街を活性化することになり、サスティナブルなまちづくりとなる。

外壁は杉板型枠の打ち放し、ガラス、アルミを使用している。それぞれの特徴を生かすことで、表情の質感（杉板の温かみと荒々しさ、ガラスの透明感、アルミの繊細さ）が強調され、相乗効果を生み出す。

また型枠の杉板は目透かしで使用することで、杉の木目と共に板の水平方向に影を落とし、荒々しさと不均一な表情を作り出した。このことにより都市の中に緊張感と野性感を混合させることが出来た。

### 「遊」「住」「働」3つの機能

事務所、集合住宅、店舗の複合建築とすることで、建築が様々な活動を通じて街と関わる事ができる。

